

研究主題

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」
—身近な地域素材を活用した教材開発を通して—



墨田区立第四吾嬬小学校

目 次

● はじめに	校長 清水 雅也	2
I 研究の概要		3
1 研究主題について		
2 研究構想図		
3 研究の経過		
II 授業実践		
・低学年分科会		6
第2学年 体育科「どすこい！ 四あづ場所！」		
・高学年分科会		17
第6学年 国語科「みんなでつくろうパンフレット」		
・たんぼぼ分科会		30
第4・5・6学年 総合的な学習の時間「まちを守ろう～地震に備えて～」		
III 研究のまとめ		42
● おわりに	副校長 宮川 範子	44

地域で学ぶ・地域から学ぶ　＋アルファは「楽しむこと」

校長 清水雅也

明治後期以降の、急速すぎる開発の影響を残す細街路。関東大震災後の復興住宅の位置づけである長屋型住宅に代表される京島地域。町工場と住宅が密集するこの町並みは、まさに「京島ラビリンス」。そして、この生活感あふれる町並みに育まれた、人情味あふれる愛すべき人々。京島地区は、古き良き昭和の匂いのする、わがココロのふるさとである。近年、災害に強い町づくりを目指し、コミュニティ住宅建設や細街路の拡幅工事等が進められ、町並みが変化しつつある。地域全体の安全性は高まったが、懐かしき長屋や町工場が失われることを惜しむ声も多い。

墨田区、その中でも京島地区は、新しさと懐かしさが混在した「地域素材の宝庫」といえる。私は、このすばらしき素材群を本校の特色として教材化・単元化できないものかと考えた。開校95周年を迎えた令和4年度、月曜朝会にて「学校のまわりにある不思議シリーズ」と題した校長講話（全25話）を展開してみた。講話のシリーズ化により、児童や教職員の地域に関する興味関心も徐々に高まったことに加え、このシリーズの反響が地域関係者や他校教員から寄せられたことに、たいへんな驚きとうれしさを感じた。もちろん、この取り組みにイチバンはまっていたのは、週末ごとに自ら取材し提示資料を作成していたわたし自身なのだが…。

地域教材の開発をテーマに校内研究を進めることとなったのは、本年度が初年度である。本校では、以前より地域商店街・町工場・防災に関する学習（調査・体験を通したまなび）、新たな京島のシンボルである2つの大学との連携学習に取り組んできた。本年度は、これまでの取り組みをベースに「教科横断的なまなび」として単元化を図ること、そして新たな地域素材を発掘することを目標に、研究に取り組んできた。その成果は、去る1月21日に開催された墨田区・特色ある学校づくり推進校発表会にて区内全校に公開済みである。

地域教材の学習を通して「なにをまなんだか、何ができるのか、何をしたいのか」を自らのコトバで語れる児童。この町の一員として、自分たちの町の魅力に気づき、未来志向の持続可能な町づくりに貢献していこうとする児童。このような児童を育成するために、わたしたちは来年度以降も研究を継続していく。研究継続の原動力は、教員・指導者自身が「地域を楽しむこと」である。「指導者サイドが楽しくなければ、子供だって楽しくならないでしょ?」、「地域でまなぶ・地域からまなぶ・みんなで楽しもう　が合い言葉になるかな?」、「楽しんでいるうちに学びが深まっちゃったよね!」、こんなまなびが展開できることこそが、わたしの理想であり、理想実現の環境整備を進めることが、わたしの使命である。

結びに、研究授業にてご指導を賜りました、「墨田区立立花吾嬬の森小学校長　向井一郎先生」、「墨田区立業平小学校長　伊藤康次先生」に衷心より感謝を申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

I 研究の概要

主体的・対話的に学ぶ児童の育成

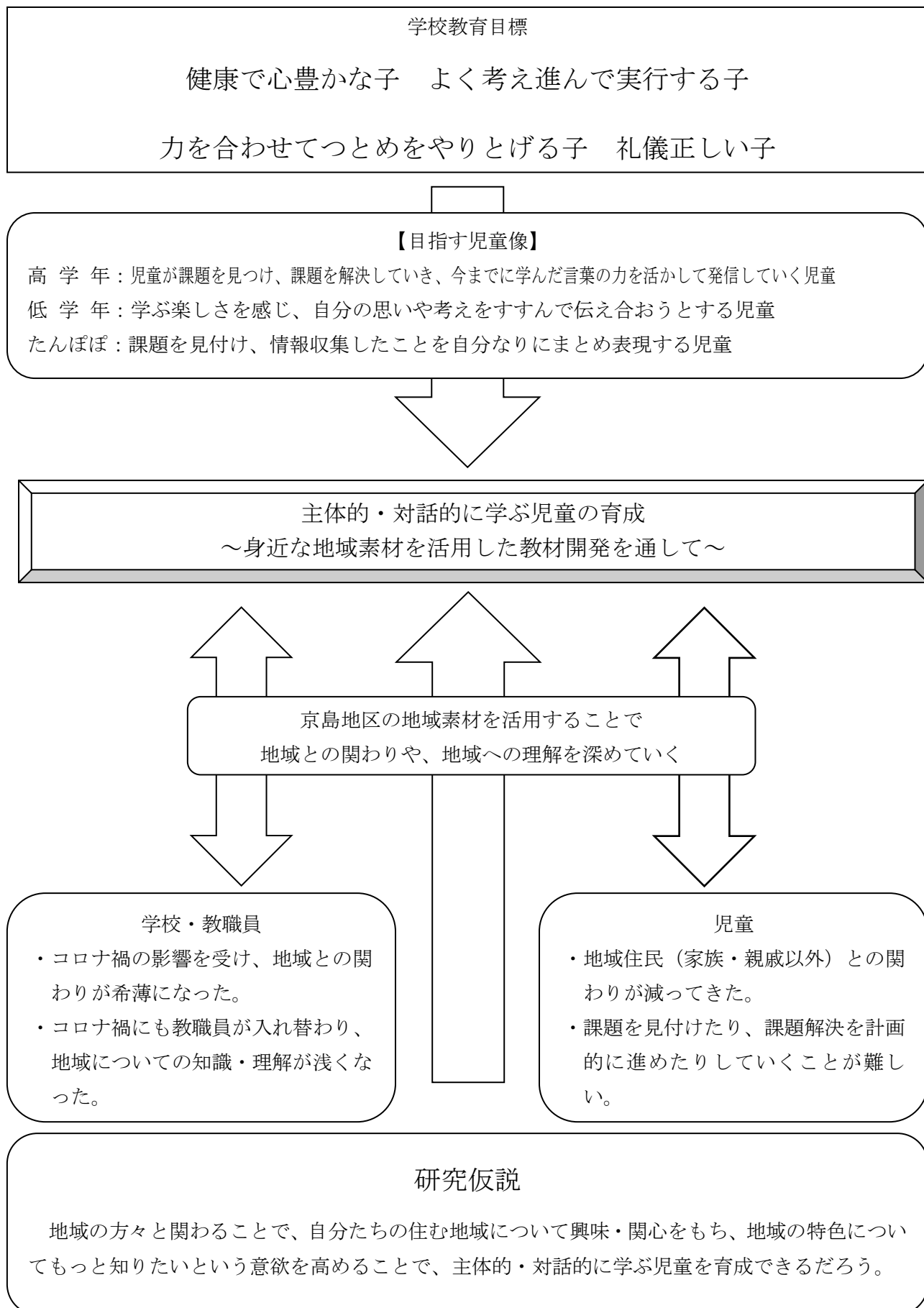
～身近な地域素材を活用した教材開発を通して～

1 研究主題について

昨年度までは、「国語科指導を通した言語活動の充実」を研究主題とし、分科会ごとに学年や単元を選択したうえで、その単元における言語活動を分析し、目指す児童像を設置、仮説を立てて研究をすすめてきた。今年度は、昨年度の成果を生かし、より主体的・対話的な学習の充実を図るため、特に教科は絞らず、研究主題を「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」とした。副主題は「身近な地域素材を活用した教材開発を通して」とした。

本校のある京島地区は、昔ながらの街並みが今日まで残されている。地域は児童にとって生活の場であることから、学習課題を見付けやすいと考えた。学区域には、児童の居場所、勉強の場、集いの場としての色合いもある商店街や相撲の押尾川部屋（2022 年～）、大学（千葉大学・I U 大学）がある。しかし、ここ数年はコロナ禍により地域を散策したり、地域の人々と関わったりする機会を設けることがほとんどできなかった。近年、少しずつ地域との交流が再開されたことで、地域と関わり、理解を深めることに力を注ぎ「地域に愛着をもつ児童」を育成したいと考えた。この研究を通して、児童には自分の住んでいる地域に「こんな素敵な人たちが住んでいる」、「こんな素敵な場所がある」といった気付きを与えて、主体的・対話的に課題や解決策を見付けたり、伝え合ったりする力を育成していきたいと考えた。

2 研究構想図



3 研究経過

月 日	研究会等	内容
4月 2日	研究推進委員会	校内研究計画(年間計画・活動内容)について 授業者検討
5月 1日	研究推進委員会	校内研究計画(副主題の検討)
5月 8日	研究全体会	校内研究計画(年間計画・研究主題、副主題)について
5月24日	研究分科会	分科会ごとに検討
6月 6日	研究全体会	特別講話 立花吾孺の森小学校校長 向井 一郎先生
6月11日	研究推進委員会	校内研究計画(役割分担)について
7月 2日	研究推進委員会	高学年分科会指導案検討
7月 8日	研究全体会	高学年分科会研究授業 第6学年 「みんなで作ろうパンフレット」 講師 立花吾孺の森小学校校長 向井 一郎先生
7月16日	研究分科会	分科会ごとに検討
9月 4日	研究推進委員会	低学年分科会指導案検討、特色の発表に向けて
9月 5日	研究分科会	分科会ごとに検討、研究のまとめ
9月13日	研究全体会	低学年分科会研究授業 第2学年 「どすこい！ 四あづ場所！」 講師 業平小学校校長 伊藤 康次先生
10月 2日	研究推進委員会	たんぽぽ分科会指導案検討 研究のまとめ、研究発表について
10月 7日	研究分科会	分科会ごとに検討、研究のまとめ
10月24日	研究全体会	たんぽぽ分科会研究授業 たんぽぽ3、4、5組 「まちを守ろう～地震に備えて～」 講師 業平小学校校長 伊藤 康次先生
11月 8日	研究推進委員会	研究のまとめ方について、研究発表について
11月12日	研究分科会	分科会ごとに研究のまとめ
12月 4日	研究分科会	分科会ごとに研究のまとめ
12月10日	研究推進委員会	研究の紀要について、研究発表について
1月15日	研究推進委員会	研究のまとめ、研究発表について
1月21日	特色ある学校づくり推進校 発表会	
1月29日	研究分科会	分科会ごとに今年度の研究のまとめ 次年度の研究についての提案・検討
2月10日	研究推進委員会	研究のまとめ、次年度の研究についての提案・検討
2月26日	研究全体会	次年度の研究計画について

Ⅱ 授業実践

低学年分科会

第2学年

『どすこい！四あづ場所』

4 研究主題の捉え方

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」
—身近な地域素材を活用した教材開発を通して—

〈分科会の捉え方〉

これからの時代を生きる子供たちに必要とされるのは、どんな難しい課題に直面しても、自らの目標を立て、周りの人と関わり合い、必要な情報を収集活用しながら、思考し判断し解決していく力であるとする。その力を学校教育で育成していくため、教室の学習だけでなく、生活科、体育科など複数の教科と連携させていく。低学年では、実際に地域の施設や人々と関わりながら学習し、身近な地域への関心を高めることで、主体的・対話的な児童が育成され则认为した。

〈地域について〉

墨田区は、2030年までは人口増加傾向が継続すると予想されているが、内訳を見ると、単身世帯・高齢者のみの世帯が増加する一方でファミリー世帯は転出超過傾向にある。産業活動においては、小売業事業所数が減少し、産業構造が変化しつつある。また、商店や町工場等の減少の一方で集合住宅や戸建て住宅が増加しつつある。隅田川の花火をはじめ、大相撲、伝統工芸といった江戸時代以来の伝統文化や史跡、老舗など今も数多く残されている

京島周辺地区は、関東大震災や東京大空襲による焼失を免れたため、昔ながらの街並みが今日まで残されている。学区域を見てみると、子供達の居場所、勉強の場、集いの場としての色合いもあるキラキラ橋商店街、2022年に独立し興した押尾川部屋、地域に進出してきたIU情報経営イノベーション専門職大学、千葉大学がある。

5 実態把握

体育や運動に対しては前向きな児童が多い。休み時間は多くの児童が外遊びで体を動かしている。体育館では曲を流すと自然と体を動かし、笑顔でリズム遊びをしている。

教室ではペア学習やグループ学習だと取り組めるが一人で学習に取り組むと自信がもてず主体的に学べない児童がいる。また、自分の思いを伝えることができて、話を聞き、受け止める力が低いいため対話が生まれないことも多々ある。

地域に関しては、キラキラ商店街でよく行くお店や、よく遊ぶ公園など身近な場所に興味、関心をもっている児童が多い。またスカイツリーや小村井駅、曳舟駅も自分たちの町の特色と捉えている。しかし、相撲部屋があることは知らない児童が多く、相撲自体をよく知らない児童も多くいる。

〈目指す児童像〉

学ぶ楽しさを感じ、自分の思いや考えをすすんで伝え合おうとする児童

6 研究仮説

『体験を通して学ぶ楽しさを感じ、気が付いたことや考えたことを伝え合うことができれば、主体的・対話的な児童が育つだろう。』

〈仮説の説明〉

低学年分科会ではまずは「知る」ことを第一に教材開発に努めた。本単元の前に相撲の調べ学習を行った。そして、いきなり相撲から始めると抵抗を感じる児童がいると予想されるため、手押し相撲や尻相撲など簡単な相撲遊びを体験し、相撲を身近に感じさせ、相撲への興味関心を高めていく。また、授業内に相撲大会や振り返りの時間を設けることで、友達を応援したり、運動のこつを伝え合ったりできると考えた。相撲という日本の伝統文化が地域にあり、自分たちの生活との関わりに気付くことで、自分の町や地域に親しみや愛着をもち、自分の気持ちや考えを伝え合う主体的・対話的な児童が育成されると考えた。

7 手だて

- ① 相撲遊びや運動が苦手な児童に対し、手押し相撲や尻相撲など親しみやすい運動遊びを通して、体を動かす楽しさを体感させる。(主体的な学び)
- ② 授業の途中や振り返りの時間に運動のこつを共有し、話し合う時間をつくる。(対話的な学び)
- ③ 相撲のことを深く調べることで、他の施設や自分たちの地域についてもっと調べたいという意欲を高め、興味の幅を広げる。(対話的な学び)

第2学年 体育科学習指導案

日 時 令和6年9月13日(金)

場 所 1 階 体 育 館

対 象 第2学年1組 23名

単元名

A 体づくりの運動遊び 「どすこい! 四あづ場所!」

イ 多様な動きをつくる運動遊び (エ) 力試しの運動遊び

単元の目標

- ・力試しの運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりする。
- ・人を押す、引く、運ぶ、支えるなどしたり、力比べをしたりするなどの動きで構成される運動遊びを通して、力を出しきったり、力を入れたり緩めたりする力試しの動きを身に付けることができるようにする。 【知識及び運動】
- ・楽しくできる多様な動きをつくる運動遊びを選ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・友達のよい動きを見付け、工夫した楽しい遊び方を友達に伝える。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・運動遊びにすすんで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気をつけたりする。 【学びに向かう力、人間性等】

単元の評価規準

知識・運動	思考・判断・表現	学びに向かう力、人間性
① 力試しの運動遊びの行い方を知るとともに、すもう遊びで相手を押し出したり、引き合い遊びで引き動かしたりすることができる。 (1) イ《エ》 ② 力を出し入れを調整し、力比べをすることができる。 (1) イ《エ》	① 自己に適した運動遊びの場を選んでいる。(2) ア ② 友達のよい動きを見付けたり、考えたりした楽しい遊び方を友達に伝えている。 (2) イ	① 力試しの運動遊びにすすんで取り組んでいる。(3) ア ② 順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。(3) イ ③ 勝敗を受け入れようとしている。(3) イ ④ 使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。(3) ウ ⑤ 場の安全に気をつけている。(3) エ

単元計画①

時間	1～3	4・5	夏休み	6・7	8～10 (本時)	11・12	13・14	15・16	17～19	20
ねらい	自分たちの住む町に興味、関心をもつ。	自分たちの町や働いている人たちについて調べる。	相撲について知る。	相撲のオリジナル軍配を作成する。	相撲遊びをできるようにする。	自分たちの町や働いている人たちについて調べる。			町探検を通して、発見したことや思ったことを工夫して表現する。	自分たちの町について愛着を深める。
学習内容	・好きな場所を紹介し合う。 ・友達が紹介した場所に行きたいという意欲をもちつ。 ・町探検の計画を立てる。	・ひきふね図書館を見学する。 ・働いている人にインタビューする。 ・学んだことをまとめ、振り返る。	・夏休みの課題で相撲の調べ学習をする。テーマ（文化、歴史、番付表、技など）は自由に児童が考える。	・軍配の意味や歴史を知る。 ・段ボール等使用し、オリジナル軍配を作成する。 ・作成した軍配は体育で使用する。	・すり足、四股、股割など相撲の動きに関わる運動遊びを行う。 ・しゃがみ相撲、押し相撲など様々な運動遊びを行う。 ・相撲大会を行う。	・相撲部屋（押尾川部屋）を見学する。 ・働いている人にインタビューする。 ・学んだことをまとめ、振り返る。	・向島警察署を見学する。 ・働いている人にインタビューする。 ・学んだことをまとめ、振り返る。	・キラキラ商店街を見学する。 ・働いている人にインタビューする。 ・学んだことをまとめ、振り返る。	・グループごとに調べたことを模造紙等にまとめる。 ・調べたことをグループごとに発表し、感想を伝え合う。	・学習したことを振り返る。 ・これから自分にできること、町に出てみたいことを考える。
教師の働きかけ	・身近なお店から想起させ、おすすめなど伝え合う。	・町探検の約束を確認し、友達と協力して安全に探検する。	・テーマ（文化、技など）やまとめ方を紹介する。	・様々な軍配を紹介し、イメージを膨らませる。	・運動が苦手な子に対し、声をかけ一緒に運動遊びを行う。	・町探検の約束を確認し、友達と協力して安全に探検する。 ・事前に聞いてみたいことを確認し、集約する。			・これまでの学習カードや写真をスライド等にまとめ、今までの学習全体を振り返るようにする。	
関連教科	生活	生活 特活	生活	図工	体育	生活 特活	生活 特活	生活 特活	生活	生活

単元計画②

時間	1	2	3（本時）
ねらい	・学習の進め方を知り単元の見通しをもつ。	・力を入れたり緩めたりする力試しの動きを身に付けることができる。 ・友だちのよい動きや、運動の工夫を友だちに伝えることができる。 ・運動遊びにすすんで取り組み、場の安全に気をつけることができる。	
学習内容	① 集合・整列・あいさつ ② 学習の流れを確認する ③ 準備運動・補助運動 （四股、股割り、すり足など） ④ 鬼遊び ⑤ さまざまなすもう遊びを行う、考える ・足裏を固定して、手押し相撲遊びをする。 ・背中を合わせて、尻相撲遊びをする。 ・お尻について相撲遊びをする。 ・しゃがんだ状態で相撲遊びをする。 など ⑥ 運動遊びのこつを共有する。 ⑦ 学習の振り返り ⑧ 片付け、集合、整列、あいさつ	① 集合・整列・あいさつ ② 学習課題を確認する ③ 準備運動・補助運動（四股、股割り、すり足など） ④ 鬼遊び ⑤ すもう遊びを行う、考える ・自分たちで考えたすもう遊びを行う。 （手押し相撲、尻相撲、けんけん相撲、座り相撲、しゃがみ相撲など） ⑥ 運動のこつを共有する。 ⑦ 四あつ場所と題し、すもう遊び大会を行う。 ・行司はビブスの次の番号の児童が行う。・6取組（番）にて、勝敗を付ける。 ・自分たちで考えた、すもう部屋の名前、しこ名を呼ぶ。 ⑧ 学習の振り返り ⑨ 片付け、集合、整列、あいさつ	
教師の働きかけ	・単元のめあてや学習の流れを掲示し見通しをもてるようにする。 ・説明を短くし、遊びこむ時間を確保する。 ・相撲遊びが苦手な児童には一緒に相撲遊びをしたり、声をかけたりする。	・説明を短くし、遊びこむ時間を確保する。 ・遊びに合った動きを引き出すことができるように言葉掛けする。 ・相撲遊びで見付けた動きを紹介し、運動のこつを共有できるようにする。 ・相撲遊び大会ではお互いの部屋を応援し誰もが楽しく参加できるように、支援する。 ・学習の振り返りが次回の学習課題につながるように言葉掛けする。	

本時の学習（３時間目／３時間）

（１）本時の目標

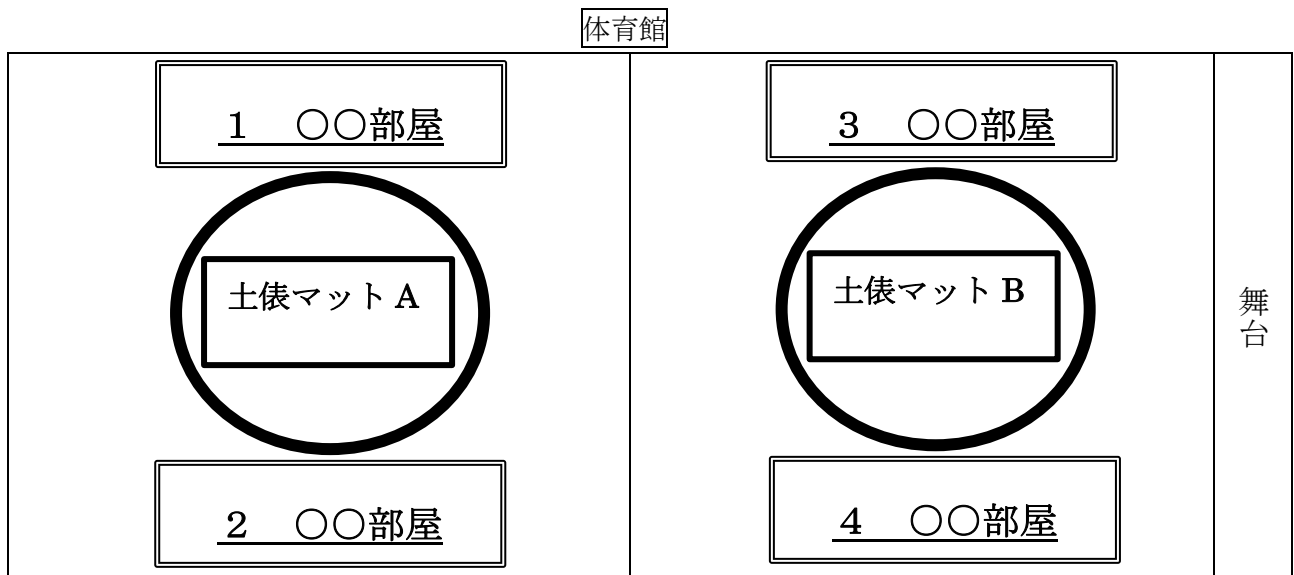
- ・友達の様子を見て見つけたよい動きや、行ってみて楽しいと感じた運動遊びの行い方を友達に伝える。（思考力、判断力、表現力等）
- ・運動遊びにすすんで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気がつけたりする。（学びに向かう力、人間性等）

（２）本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ★評価
導入 １５分	めあて すもう（四あづ場しよ）を楽しもう！ ○あいさつ ○めあてを確認する。 C：ルールを守ってすもう遊びをします。 C：友だちと協力して、すもう遊びを楽しみます。 C：腰を落として、相手を押したいです。 ○準備運動（リズム体操） ・四股、股割り など ○鬼遊び	・個々のめあてを共有する。 ・裸足で行う。 →足指を十分に動かすこと、足裏への刺激を与えることで歩行やバランスに欠かせない土ふまずの形成に役立たせる。（足育） ・拍子木をする。
展開 １０分	○すもう遊びを考え、行う。 ・手押し相撲・・・足裏を固定して相撲遊び ・尻相撲・・・背中合わせになって、尻で押し合う ・すわり相撲・・・お尻をついて相撲遊び ・しゃがみ相撲・・・しゃがんで相撲遊び ・タオル相撲・・・タオルを引っ張り合う ・けんけん相撲・・・けんけんで相撲遊び など ○運動のこつを共有する。 ・体の一部とオノマトペを使い表現する。 C：腰をグッと落とすと力が入りやすいです。 C：サッと力を抜くと、相手の力が抜けます。 C：足を上げないで、足の裏でグッと踏ん張ると倒れないです。	・安全面、ルールについて確認する。 ★すすんですもう遊びを行い、誰とでも仲よく取り組み、場の安全に気を付けている。 （学びに向かう力、人間性等） ・児童の考えた相撲遊びやよい動きを紹介する。

展開② 15分	○四あつ場所と題し、すもう遊び大会（6取組（番））を部屋対抗で行う。 ・ 1 取組 1 分で行う。 ・ 行司はビブスの次の番号の児童が行う。（軍配は図工の作品を使用する。） ・ 自分たちで考えた、すもう部屋の名前、しこ名を呼ぶ。 ・ 6 取組（番）にて、勝敗を付ける。	・ 4 部屋（ビブス 4 色、各部屋 6 人）で行う。ビブスの番号で同じ体格、性別（番号小→体格小、番号大→体格大、奇数→男子、偶数→女子）になるように配慮する。 ・ すもう遊び大会の相手は同じビブスの番号の児童とする。
終末 5分	○振り返り ・ 部屋ごとに思ったこと、楽しかったこと、友達によかったことなどを伝え合う。 ・ 部屋ごとに伝え合ったことを全体で発表する。 ○片付け ○あいさつ	・ 部屋ごとに伝え合うことで一人 1 回は発表の場を設ける。 ★友だちのよい動きや、やってみて楽しいと感じた運動遊びを伝えることができる。（思考力、判断力、表現力等）

〈場の設定〉



※土俵マットの周りに長方形のマットを囲むように並べて、場を大きく作る。

〈授業観察の視点〉

- ① 児童が主体的に活動に取り組んでいるか。
- ② 遊びの工夫や応援、運動のこつなどについて対話が生まれているか。

9 協議会記録

(1) 協議会より

- ・単元の順番について
→相撲部屋の予定の関係で、本時の後になってしまった。質問しても相撲部屋は出て来なかった。調べ学習を夏休みに行き、そこから本地に取り組む流れになった。
- ・体育としてこの単元を選んだ理由・単元計画について
→体遊びを取り入れたいから体育として行った。軍配を作成したり、なりきらせたりしてしまったため、レクリエーションに近くなってしまった。
- ・コツの共有→先生が声をかけて児童が答えていた。欲を言えば、コツは児童から出ると尚良い。
- ・主体的に一生懸命取り組んでいた。(応援も声が出ていた)
- ・自分たちで遊びを選ぶことで、主体的に取り組んでいた。
- ・掲示物や軍配も自分たちで作成していたのがとても良かった。

(2) 指導講評 墨田区立業平小学校 校長 伊藤 康次 先生

教材として地域を取り入れること

とても良かった。教科横断型的な授業として取り組んでいた。図工や調べ学習。どんな資質・能力を育てていきたいかが大切になってくるので、横断型的な授業をすることができていた。

場の工夫

マットや掲示の環境づくり、空間づくりが工夫されていた。周りの環境から刺激を与えていた。軍配を作ったことで、取り組みを真剣に見る児童が出てくる。環境・場の工夫として良かった。

導入について

準備体操から今日の単元で行う四股を踏んだり、股割りをしたりすることで、単元へのモチベーションを高めることができていた。駆け引きのような相撲遊びができていた。力を抜いたり、こめたりすることで力のコントロールができていた児童が多かった。体の軸やボディイメージが課題の児童もいる。自分の体がどのように動いているかイメージすることも大切。また、その次の「相撲遊び」では、児童がランダムに自分のやりたい遊びを選んで、運動を楽しみながら取り組んでいた。児童の様子を言語化すると学ぶエビデンスが出来上がる。整理・分析していくと伸ばしたい資質・能力になっていくのではないかな。

教師の狙い

体力テストの結果を踏まえ、向上させるキッカケになると考えて授業に取り入れたことが良かった。相撲を主として取り組んだことも良かった。交流ではなく、児童の体育的な資質・能力に着目し、教科横断として授業を組み立てていた。お相撲さんは、自分の入学式にもきてくれたというイメージ。→そこから相撲部屋に行く。→自分たちの地域のお相撲さん。対象物と自分の間に結び目が感じられないと「身近」とはいえない。近くで遊んでいても視点や意識がなければ「身近」ではない。見えていないことも言語化したり掲示物を通して見え化する。キラキラ商店街や周りの公園についてもどんどん派生していき、周りの地域の人たちと触れ合いたいと思うことが大切。そして、

調べて「なぜ」「何」が生まれていくことが大切。学校や児童だけではなく、相手にもメリットがあることが大切で、地域の人たちにとっても良かったと思えるような学びを。繰り返し地域の人と関わって育んだ資質・能力を将来に役立てられればと思う。

10 研究のまとめ

(1) 各手だての検証

i 手だてに沿った検証

- 相撲遊びや運動が苦手な児童に対し、手押し相撲や尻相撲など親しみやすい運動遊びを通して、体を動かす楽しさを体感させる。(主体的な学び)
 - ・手押し相撲、尻相撲、引っ張り相撲、片足相撲、座り相撲など多くの遊びの選択肢を与え、自らその相撲遊びを選択したことで、運動が苦手な児童も抵抗感なく、期待感をもちながら取り組むことができた。また、多くの児童と多くの相撲遊びを取り組んだため、飽きずに意欲的に取り組み続けることができた。お楽しみ会でも相撲をしたいという意見が出るようになった。
- 授業の途中や振り返りの時間に運動のこつを共有し、話し合う時間をつくる。(対話的な学び)
 - ・思ったことや感じたことを伝え合うことはできたが、動きのこつまで考え共有することは難しかった。
- 相撲のことを深く調べることで、他の施設や自分たちの地域についてもっと調べたいという意欲を高め、興味の幅を広げる。(対話的な学び)
 - ・相撲への興味、関心を高め、地域の良さに気付くことができた。相撲部屋のある自分たちの地域の素晴らしさに気付いたことで、他のお店や公園、商店街など地域のことをもっと調べてみたいという意見が多く挙がった。学校評価アンケートでも地域のことを楽しく学んでいると肯定的な回答をした児童は91.7%となった。

ii 仮説の検証

仮説

『体験を通して学ぶ楽しさを感じ、気が付いたことや考えたことを伝え合うことができれば、主体的・対話的な児童が育つだろう。』

授業前は相撲についてあまり知らない児童も多く、興味や関心も薄い様子があった。身近なようで身近ではない相撲であったが、生活、図工、体育、特別活動などの学習を通して児童は意欲的に学びに向き合うことができた。また、実際に体を動かし相撲遊びを体験することで相撲に対して肯定的なイメージ、印象をもつことができた。相撲の楽しさを肌で体感し、身近なものに感じたことで、相撲への興味、関心を高めただけでなく、地域の他の施設も調べたいと興味の幅を広げることができた。

(2) 成果と課題

〈成果〉

- 手押し相撲や尻相撲など相撲遊びから導入したことで、運動に対して苦手なイメージをもつ児童も前向きに取り組むことができた。また、遊びの時間を多く設けたことで運動量も確保することができた。
- 授業の途中と振り返りの時間を設けたことで、児童同士で友達の良かった動きや課題などを伝え合うことができた。普段関わりが少ない児童もさまざまな友達と交流することができた。
- 授業の後半に相撲大会をしたことで、全力で力試しの運動遊びをすることができた。本場所さながらのほどよい緊張感と期待感を高めながら学習することができた。勝敗が絡むことで勝った児童は心から喜び、負けた児童は涙を流してくやしがるほど熱中して取り組んだ。また、個人戦ではなく、チーム戦（部屋別対抗）にしたことで、友達と声を掛け合い、お互いを励まし合うことができた。
- 事前に相撲の歴史や文化、技などの調べ学習を行い、自身にしこ名をつけたり、マイ軍配を作ったり、相撲の本を読み聞かせしたりしたことで、地域の文化である相撲を身近に感じ、多角的に相撲と触れ合うことができた。

〈課題〉

- 教材との出合わせ方を工夫する必要があった。町探検をしてから児童自ら相撲部屋の存在に気づき、興味、関心をもって学習に入ると良かった。本時に向けて、教員側が計画、見通しをもっと具体的にもつべきであった。
- 相撲と関わる授業を学ぶだけでは地域への愛着を高めるのは難しいと感じた。さまざまな地域学習を、時間をかけて行うことで地域への興味、関心を高めることができると感じた。
- 授業の後半に相撲大会を行い、行司をつけて、しこ名を呼び合う場面をつくったことで、体育学習としては運動遊びを行う時間が減少し、運動量が減ってしまった。相撲大会を学級活動で取り組むなどの工夫が必要だった。
- 振り返りの時間では思ったことや感じたこと、感想を伝えることはできたが、運動のこつを共有することはできなかった。2年生の実態として感想と運動のこつの二つを共有することは難しい。

高学年分科会

第 6 学年

『みんなで作ろうパンフレット』

4 研究主題の捉え方

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成
ー身近な地域素材を活用した教材開発を通してー」

分科会の捉え方

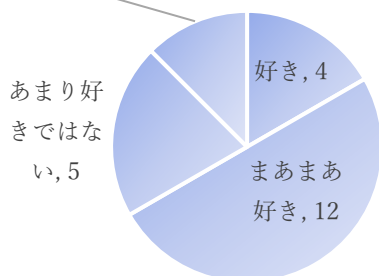
小学校学習指導要領総則国語編（平成29年告示）の目標には、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。」とある。

児童が自分の考えをもち、その考えをさらに深めていくには、他者との関わりの中で言語を通して伝え合い、広げたり深めたりしていくことが大切である。しかし、高学年になると自分の考えに自信がもてず発言ができなかったり、特定の児童に発言が偏ったりしてしまう傾向にある。そこで、身近にある、商店街のパフレットを作るという、具体的目標を設定する。実際にお世話になったお店を宣伝するために、児童一人一人が意見を交流しやすくなる。また、そのお店をより良く知ることにより地域に愛着をもつきっかけになるのではないかと考える。

5 実態把握

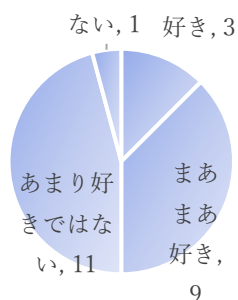
アンケート対象 6年1組 24名 令和6年5月末実施 アンケートの単位は人

好きでは 国語の学習は好きですか
ない, 3

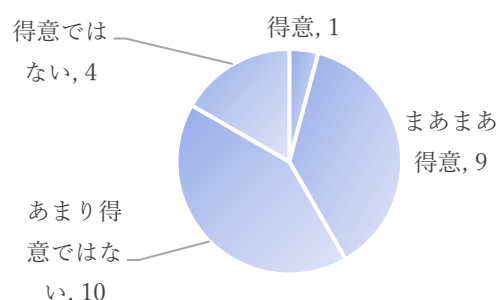


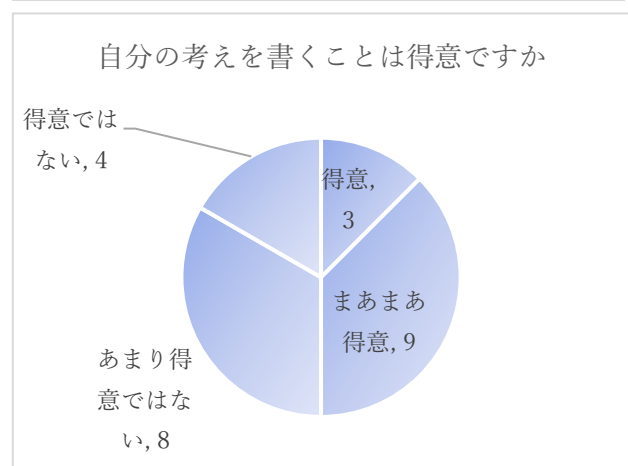
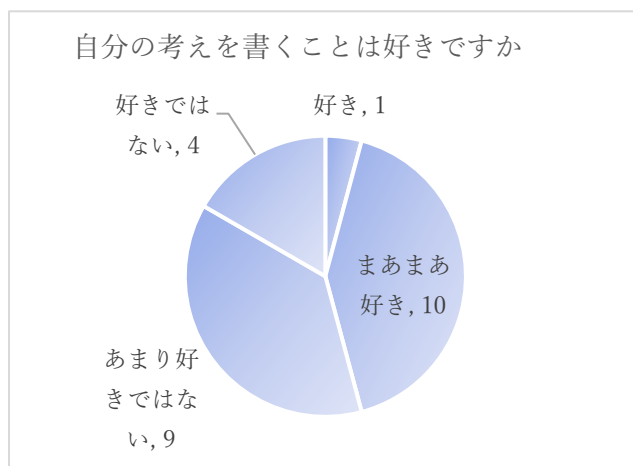
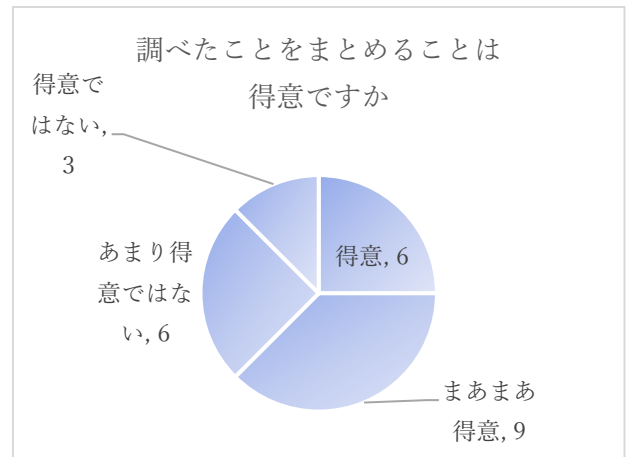
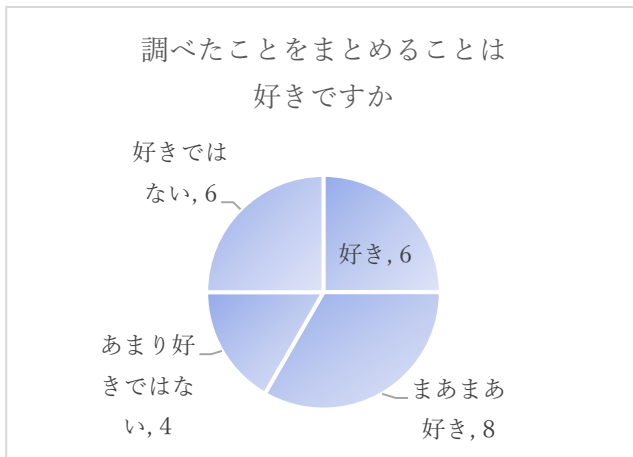
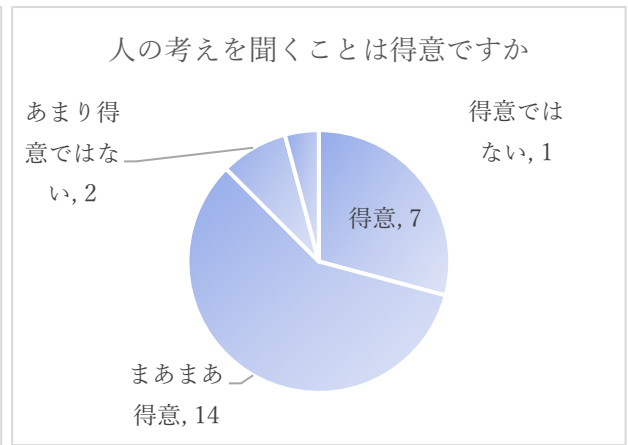
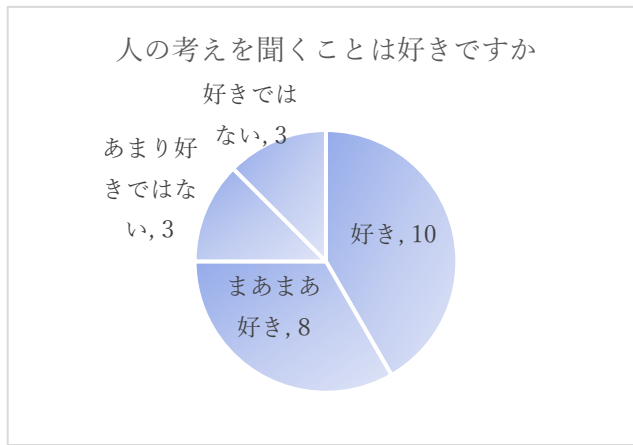
7割程度の児童は国語の学習に対して肯定的にとらえている。一方で1割程度の児童は好きではないと答えている。以下、場面ごとのにも違いがみられる。好きではあるが得意かどうかを問われると肯定的な回答の割合は低下する傾向にある。これまでの学習の積み重ねが原因として考えられる。

自分の考えを話して伝えることは
好きですか



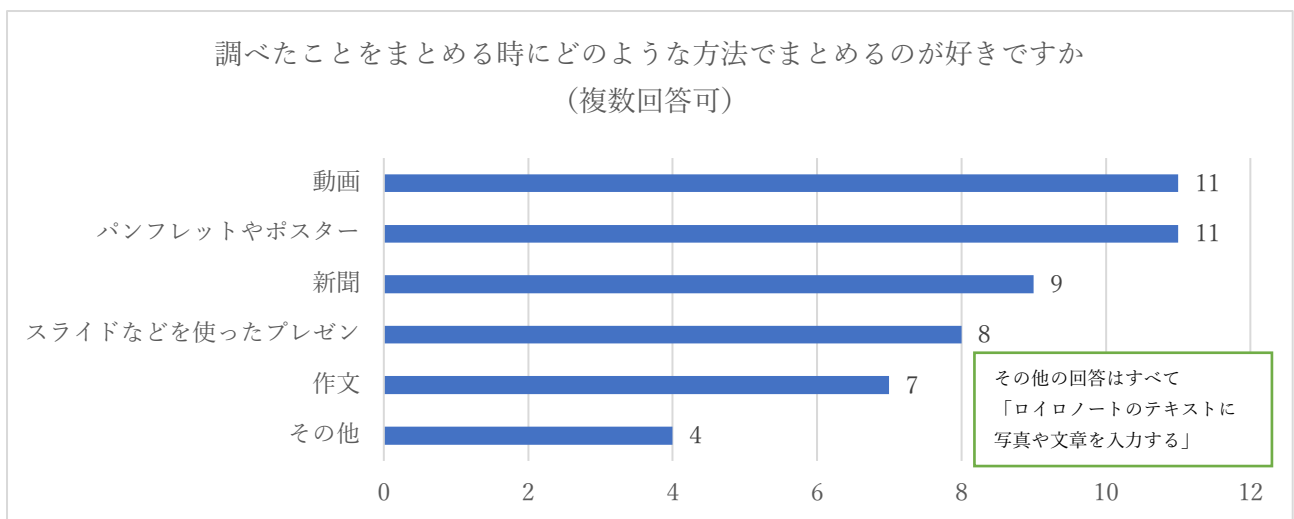
自分の考えを話して伝えることは
得意ですか





考察

- どの項目も「好き」よりも「得意」のほうが、肯定的な回答が少ない。好きではあるがそれを発揮できるだけの力が身に付いていないと感じている児童がいると考えられる。
- 聞くよりも話したり書いたりするような、自分の考えを表現する場面に対しては肯定的な回答が少なくなる。聞く活動を受け身的なものにとらえている可能性が考えられる。聞いたことをまとめたり対話したりするような、表現する場面までを聞く活動と想定していないことが考えられる。
- 書く、話す、まとめるなどに共通していることは、自分の考えを表現することである。特に書く活動に対しては肯定的な児童が少なく、苦手を感じている児童も他と比べて多いと考えられる。



考察

- ・作文などのように、文章だけで自分の考えを表現することが好きだと回答した児童は一番少なかった。写真や動画など、資料を付け加えて自分の考えを表現することのほうを好んでいる様子が分かる。
- ・動画でまとめることを好んでいる児童が多い一方、話すことが得意と回答している児童は少ない。動画では聞き手がその場にいないことが要因として考えられる。プレゼンと回答した児童が動画よりも少ないことは、プレゼンにはその場に聞き手がいることが要因として考えられる。

目指す児童像

児童が課題を見つけ、課題を解決していき、今までに学んだ言葉の力を活かして発信していく児童

6 研究仮説

『お店の人にパンフレットに入れてほしい内容を聞き、自分たちなりの理由を考え、パンフレットを作成すれば、主体的・対話的に取り組む児童が育つであろう。』

○ 仮説の説明

児童の実態から、「調べたことをまとめる時に、動画やポスター・パンフレットでまとめるのが好き」である児童が多いことがわかった。その結果を受けて、本単元では作成物を「ポスター・パンフレット」に絞った。

5年生の時に「顔出しパネル」の学習でお世話になったお店へ行き、店主のポスターやパンフレットに載せて欲しい項目をインタビューする。それをもとにグループでポスター・パンフレットを作成する。ポスターの色、商品の写真、文字の形など自分たちが決めたレイアウトに必ず店主の思いが含まれている理由を述べるができるようにする。また、グループ同士でポスター・パンフレットの工夫を聞き合う。聞き合うことによりポスターの説明方法がより深まると考える。

7 手だて

(1) 「目的意識」をもたせる単元計画

本単元の最終活動として、「ポスター・パンフレットをお店に掲示してもらおう」ことを伝え、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるようにしていく。

(2) 根拠をもつための話し合い活動

店主の願いをもとに自分が考えたアイデアを話し合う活動を取り入れる。自分の考えがまとまらなかった児童も、友達の考えを聞き、自分の考えにより近い方を選ぶ。その後、クラス全体での話し合いで、さらに考えを交流し、グループの考えを深めていく。

(3) ICT 機器（ロイロノート）の活用

ポスターやパンフレットを紙に描きながら推敲するには手間がかかる。そこでロイロノートを活用することで、友達の意見を取り入れそれをもとに推敲する。このようすれば、清書にかかる時間の短縮となる。

第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和6年7月8日(月)

場 所 6年1組 教室

対 象 第6学年1組 29名

単元名 「みんなで作ろうパンフレット」

単元の目標

- ・情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使っている。
(知識及び技能)
- ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いているなど自分の考えが伝わるように表し方を工夫している。(思考力、判断力、表現力等)
- ・「話すこと・聞くこと」において互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(思考力、判断力、表現力等)
- ・積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
③ 情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2) イ	③ 「書くことに」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している、B(1)ウ ④ 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。B (1) エ	⑥ 積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。

単元計画（全5時間扱い）

時	学習のねらい	・学習内容と☆評価
1	お店の課題について話し合い、パンフレットで知らせたい内容を考える。 （見通しをもとう） 1 教科書を読み、どのようにパンフレットを作るかイメージし、学習の課題をもつ。 （決めよう・集めよう） 2 担当するお店のグループで集まり知らせたい内容を話し合う。	・学習内容と☆評価 ・読んでもらう相手や目的を明確にする。その際、相手が大人なのか子どもなのか、どのようなことを中心に伝えるのかなどを具体的に考えさせる。 ☆お店の課題について話し合い、パンフレットで知らせたい内容を考えている。 【主】（発言、ノート）
2	パンフレットで書く分担を話し合い、構成を考える。 （組み立てよう） 3 パンフレットを書く分担を決め、構成を考える。	・構成についてはP59 下段の構成例を参考にするほか、地域で配布されているパンフレットや広報誌など、身近にあるパンフレットを用意させる。 ☆パンフレットを書く分担を決め、構成を考える。【主】（ノート、発言）
3	構成をもとに、事実と感想、意見を区別したり、図表や写真、絵などを効果的に取り入れたりして書く。 （書こう） 4 パンフレットを作る。 （読み返そう） 5 文章を読み返す。	・読み手がわかりやすくなるように工夫させる。 ☆構成をもとに、事実と感想、意見を区別したり、図表や写真、絵などを効果的に取り入れたりして書いている。【主】（ノート、発言）
4 （本時）	パンフレットを読み合い、何を伝えたいのかを読み取り、良さや感想を伝えている。 （伝え合おう） 6 パンフレットを読み合う。	・学級内で、パンフレットを読み合い、他のグループの良いところを取り入れたり、改善したりする。 ☆パンフレットを読み合い、何を伝えたいのかを読み取り、良さや感想を伝えている。【主】（ノート、発言）

5	自分たちが作った、パンフレットを商店街の担当した店にもっていき、パンフレットの工夫を説明する。 (発信しよう) 7 自分たちの作ったパンフレットを商店街にもっていく。 (振り返ろう) 8 知らせたいことや、読む人のことを考えて、わかりやすいパンフレットを作るためにどんな工夫をしたか振り返る。	・パンフレットを渡すときには、どのような工夫をしたかを店主に伝える。 ☆自分たちが作った、パンフレットを商店街の担当した店にもっていき、パンフレットの工夫を説明できたか。
---	---	---

本時の学習（４時間目／５時間）

（１）本時の目標

- ・パンフレットを読み合い、何を伝えたいのかを読み取り、良さや感想を伝えている。

（思考力，判断力，表現力等）

（２）本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ★評価
導入	○前時の学習を振り返る。 ○めあてを確認する。 めあて パンフレットを読み合い、何を伝えたいのかを読み取り、良さや感想を伝えよう。	・読み手がわかりやすくなるように工夫されているか確かめる。
展開	○他のグループのパンフレットを読み、伝えたい事が何か考える。 ○自分のグループにはない良さを見つける。 ○グループ同士でポスターを紹介し合う。 T:他のグループのパンフレットで参考になる物は何ですか？ C:「言いたいことを大きな文字で書いているところです。」 C:「商品の絵を描いているのが良いです。」 ○他のグループの意見を聞いて、パンフレットをより良くする方法を考える。 T:友達の見解を取り入れてパンフレットをどのように改善しますか。 C:「文字をもう少し大きくします。」 C:「商品の絵を描いて紹介します。」 ○パンフレットを改善する。	・パンフレットの色や文字などから伝えたい意味を考えさせる。 ★他のグループの作品を見てより良い表現を見つけることができたか。 ・意見が出て、お店の要望を第一に改善に取り組む。 ・考えが行き詰まったときにはゲストティーチャー（千葉大生）の考えを参考にする。 ★意見を聞いてお店の要望に沿ったパンフレットを改善ができたか。 （思考力，判断力，表現力等）
終末	○振り返りを書く。	・本時の学習を通して、どのようにパンフレットを改善したか説明できるように促す。

（３）授業観察の視点

○研究主題に迫るために講じた手だては適切であったか。

9 協議会記録

(1) 協議会より

○「目的意識」をもたせる単元計画

- ・昨年度、図工の授業でお世話になったお店に感謝を表そうと今回の授業を計画した。本単元の最終活動として、「ポスター・パンフレットをお店に掲示してもらう」ことを伝え、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるようにした。

○根拠をもつための話し合い活動

- ・パンフレットを作成するにあたりお店の人にインタビューを行うことで、児童が自分の考えをもち、主体的・対話的に活動ができるようにした。
- ・児童一人一人が活発に意見の交流ができるよう、身近にある商店街のパンフレットをつくるという具体的目標を設定した。
- ・店主の願いをもとにどのようなパンフレットにしていくかアイデアを話し合うことで、自分の考えがまとまらなかった児童も、友達の考えを聞き自分の意見をもてるようにしたり、グループ全体の考えを深めたりしていくことができる。

○ICT 機器（ロイロノート）の活用

- ・パンフレットをロイロノートで作成することで、グループの人と同時に作業したり、友達の意見を参考にしてすぐに編集したりすることができる。また、清書にかかる時間も短縮することができ、より効率的に学習を進めることができる。

○質疑、応答

- ・パンフレットを作成するために、目的意識をもたせたのがとても良かった。
- ・5年生の国語の学習とつながっていてよい。
- ・意欲的に発表していたがプレゼンが目立ってしまった。お店の人の思いに標準を当てて発表しても良かった。
- ・スクリーンが見えづらかったため、手元に作成したパンフレットを配布しても良かった。
- ・他のグループの良いところを発表した際に、発表するグループを固定したのはなぜか。

→全員に発言の機会をもたせることで、各グループの良いところに気が付くことができるようにした。

(2) 指導講評 立花吾孀の森小学校校長 向井 一郎先生

○本時の授業について

- ・子供たちのプレゼン力があり、パンフレットよりプレゼンを見に来た感覚になった。今回のようなスピーチに取り組むと発表する力が伸びる。
- ・とても素晴らしい取り組みなので、プレゼンをお店の人にも見てもらえると良い。
- ・子供たちの関係性が素晴らしい。
- ・今の子供たちは、日頃から様々な媒体で動画を見ており、教員の工夫次第では発表に意欲的になれる。
- ・子供にとって、パンフレットを作ることは簡単なことではない。教員が見本やお手本を示していくと目標が明確になる。

【学習新聞との違い】

新聞：壁に掲示する形式。

パンフレット：大量に印刷して配布する形式。

＊できるだけ見やすくシンプルにする。お店をイメージさせる一言などキャッチフレーズなどがあっても良い。

＊読み手を誰とするのか明確にし、読み手の興味を引き出せるような中身が作成できると良い。
今回はクラスの友達ではなく、お店のお客さんが対象となる。

例)「地域の人に一生懸命頑張っているお店」、「地元の人のための商店街」などとお店の良いところをアピールする。

10 研究のまとめ

(1) 各手だての検証

i 手だてに沿った検証

○目的意識をもたせる単元計画

- ・パンフレットを作成するために目的意識をもたせたのがとても良かった
- ・5年生の国語の学習とつながっていて良い
- ・ポスター、パンフレット、リーフレットの違いは何か認識が必要

→ ポスター：1ページの掲示物

パンフレット：複数ページの冊子

リーフレット：広げて1枚になるもの

○根拠をもつための話し合い活動

- ・意欲的に発表していた。
- ・目的意識をもたせたことでお店の人の思いに沿って話し合い、パンフレットを作成できた。

○ICT 機器の活用

- ・ロイロノートで作成したことで、すぐ編集することができた。
- ・グループの人全員で作業ができた。

→スクリーンが見えにくかったので手元に作成したパンフレットを配布してもよかった。

ii 仮説の検証

仮説

『お店の人にパンフレットに入れてほしい内容を聞き、自分たちなりの理由を考え、パンフレットを作成すれば、主体的・対話的に取り組む児童が育つであろう。』

単元の終末活動を提示し意識させたことで、学習の見通しをもって進めることができた。お店の人にインタビューをしたことで、完成形をイメージしながら学習に取り組むことができた。また、表現方法を「ポスター・パンフレット」に絞ったことで、児童同士がアドバイスし合う際に、グループで作成した成果物をもとに考えを伝えたり、共有したりすることができた。

(2) 成果と課題

アンケート結果

1. 国語の学習は好きですか					
	事前	事後			
好き	4	6			
まあまあ好き	12	13			
あまり好きではない	5	4			
好きではない	3	1			

2. 自分の考えを話して伝えることは好きですか			3. 自分の考えを話して伝えることは得意ですか		
	事前	事後		事前	事後
好き	3	7	得意	1	4
まあまあ好き	9	8	まあまあ得意	9	4
あまり好きではない	11	8	あまり得意ではない	10	15
好きではない	1	1	得意ではない	4	1

4. 人の考えを聞くことは好きですか			5. 人の考えを聞くことは得意ですか		
	事前	事後		事前	事後
好き	10	11	得意	7	8
まあまあ好き	8	9	まあまあ得意	14	10
あまり好きではない	3	3	あまり得意ではない	2	4
好きではない	3	1	得意ではない	1	2

6. 調べたことをまとめることは好きですか			7. 調べたことをまとめることは得意ですか		
	事前	事後		事前	事後
好き	6	9	得意	6	7
まあまあ好き	8	8	まあまあ得意	9	8
あまり好きではない	4	6	あまり得意ではない	6	7
好きではない	6	1	得意ではない	3	2

8. 自分の考えを書くことは好きですか			9. 自分の考えを書くことは得意ですか		
	事前	事後		事前	事後
好き	1	6	得意	3	5
まあまあ好き	10	10	まあまあ得意	9	5
あまり好きではない	9	7	あまり得意ではない	8	11
好きではない	4	1	得意ではない	4	3

〈成果〉

- 「国語の学習は好きですか」の項目において、事前アンケートと比較すると肯定的な回答をした児童が3名増えた。お店の方にインタビューしたことで、具体的に完成形をイメージしたり、同じめあてに向かってグループで話し合いながら学習を進めたりしたことで意欲的に取り組むことができたのではないかと考えられる。
- 「話す」「聞く」「まとめる」「書く」の項目において、「好きですか」の質問に対しては肯定的な回答をした児童が増えた。制作物の具体的なめあて（お店の方の要望を取り入れたものを作る）があったことで、グループの話し合いが一本化されていたことが有効であったのではないかと考えられる。

〈課題〉

- 「話す」「聞く」「まとめる」「書く」の項目において、「得意ですか」の質問に対しては否定的な回答をしている児童が増えていることが分かる。さまざまな活動場面において、児童は「こうすれば良かった。」や「もう少しこうしたかった。」などの改善点を感じている可能性がある。単元後半に成果物を見合いアドバイスするだけでなく、単元途中にも教師や他グループからアドバイスをもらう時間を設けることで改善したり、修正したりできるようにする必要がある。
- 「好きですか」の項目においては、肯定的な回答をした児童が増えたが、「得意ですか」の項目においては成果があまり見られなかったため、技能の向上が実感できるような手だてを検討していく必要がある。

たんぽぽ分科会

たんぽぽ 3 ・ 4 ・ 5 組

『まちを守ろう～地震にそなえて～』

4 研究主題の捉え方

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」
ー身近な地域素材を活用した教材開発を通してー

○主体的対話的（題材）をどう捉えるか

平成 29 年 4 月告示の「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」では、児童生徒がこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが示された。ただし、児童生徒は「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活場面の中で生かすことが難しい」（学習指導要領解説各教科等編〈小学部・中学部〉抜粋）などの学習上の課題がある。「主体的で対話的な学び」を実現するためには、教師がその特性を踏まえて授業計画を立てることが重要となる。児童一人一人が既習事項や生活経験などを基に、学ぶことに興味関心をもてる学習内容を設定したり、友達や教師、地域の人などに関わることができる学習形態や学習場面を意図的に設定したりすることによって、考えを広げたり深めたりすることができるのではないかと考えた。

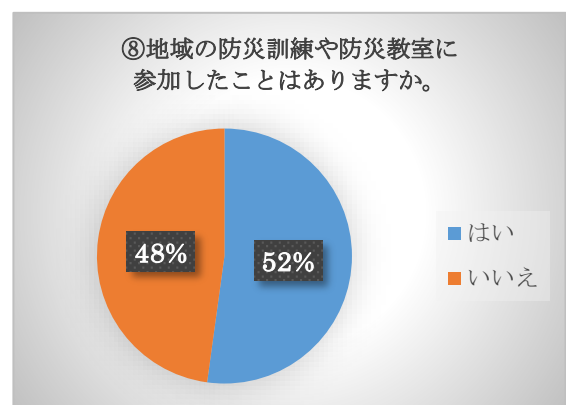
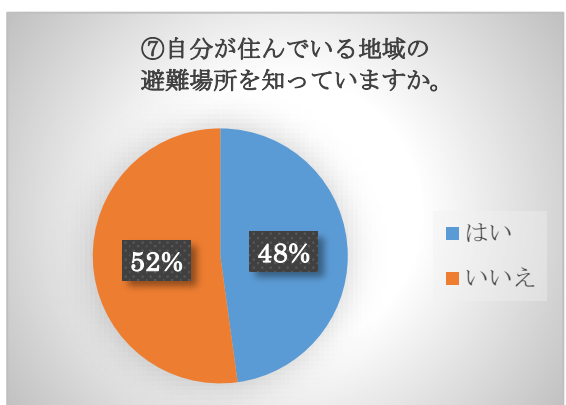
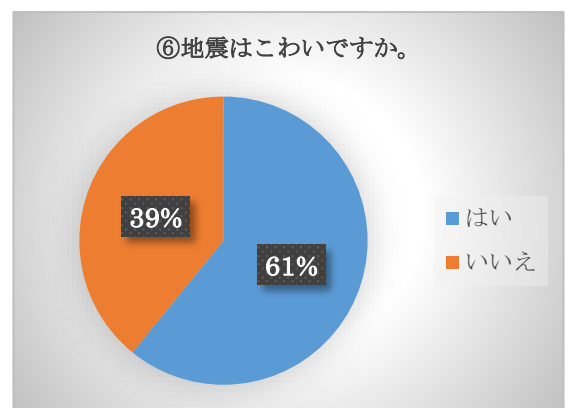
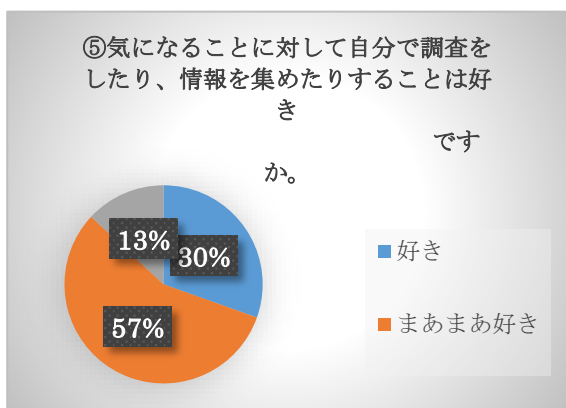
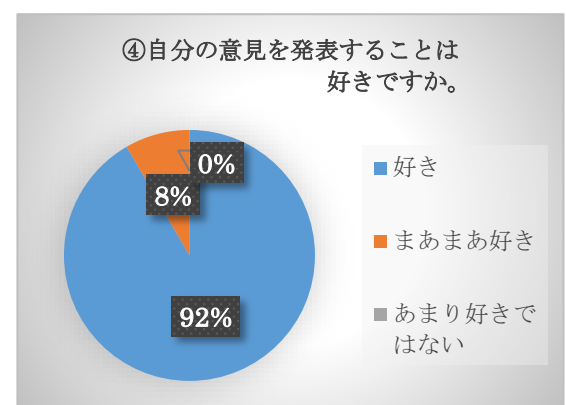
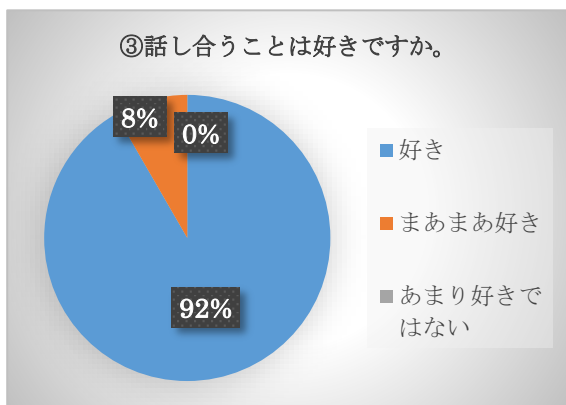
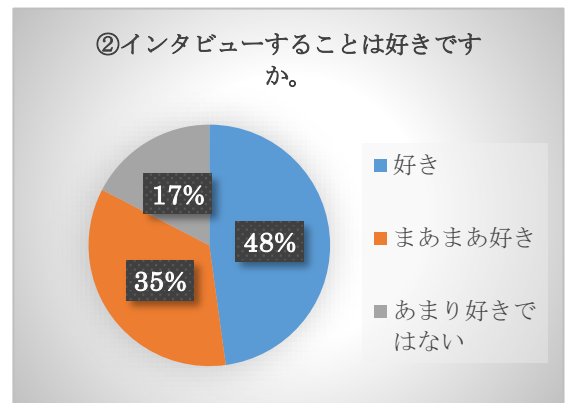
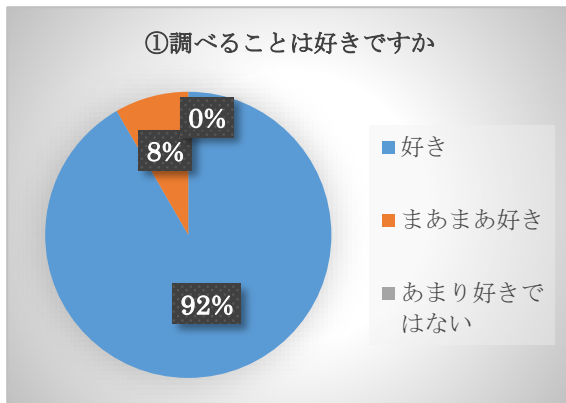
○地域について

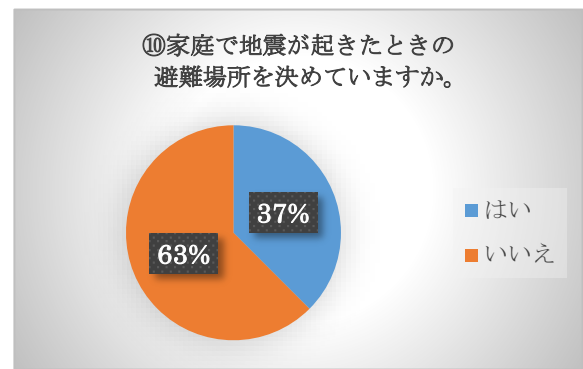
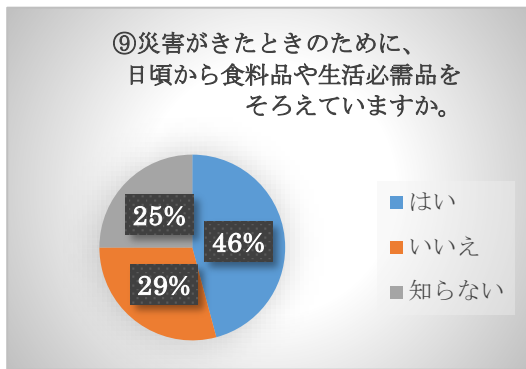
近年、地震をはじめ、日本各地で起きている自然災害は日本に大きな被害をもたらしている。本校も例外ではなく、特に東京都 23 区の中でも墨田区は河川に隣接した低地に立地している。本校にとって、地震や水害などの自然災害から様々な被害が起きることが想定される。普段から避難訓練を通して、地震や火災が起きた際の避難行動については訓練して児童も身に付いているものの、いざという時に行動に移せる児童は少ないと考える。そのため、実際に災害が起きた際に自分の命を守ることができる自助の意識や状況から自分で判断して行動できる共助の意識を育てる防災教育の充実が重要になる。

しかし、家庭環境や地域の実態を見ると、昔より地域の中で助け合う共助が薄れてきている。地域とのつながりが薄くなり、自然災害が起きたときの地域での助け合いが困難になっている。災害が起きている中で、周りの指示を聞いて動くことはもちろん、自ら安全な行動ができ、災害が起きた際に地域と助け合い、家族や地域のために行動できる児童を育てていくことが必要だと考える。

5 実態把握

アンケート対象 たんぽぽ3, 4, 5組 24名 令和6年9月上旬実施





⑪自分が登校しているときに地震が起きたらどうしますか。

- ・公園に避難する。
- ・頭を守る。
- ・家に戻る。
- ・広いところに逃げる。
- ・頭を押さえて逃げる。
- ・道路の真ん中にしゃがんで身を守る。

○考察

- ・話し合ったり調べたりすることは、ほとんどの児童が好きである。一方で、インタビューをしたり、情報を集めたりすることについては経験が少ないからか好む児童は少ない傾向にある。
- ・地域の防災訓練や防災教室に参加したことのある児童が半数いる。
- ・災害の備蓄については、「知らない」「揃えていない」が半数を超えた。
- ・住んでいる地域の避難場所を知らない児童が半数を占め、2/3の児童が家族との避難場所を決めていない。
- ・自分が登校している時に地震が起きたらどうするかについては、頭を守るなどの身の安全を確保することを知識として理解している。

→普段の避難訓練や防災の学習を通して、地震が起きた時の対応などの基礎的な知識は分かっている。

→地域の防災訓練や防災教室に参加したことのある児童が半数いることから、少なくとも児童の半数は防災について普段から考えたり、興味関心をもったりしていることが分かる。

課題を見つけ、情報収集したことを自分なりにまとめ表現する児童

6 研究仮説

『学校のまわりの地域の特徴を知り、疑問に思ったことを調べたり交流しあったりすれば、主体的・対話的に取り組む児童が育つだろう。』

○ 仮説の説明

児童は、これまでに学校のまわりを歩き、商店街や施設の建物、交通の様子などを見学してきた。本単元では、学校のまわりの地域の特徴から、災害発生時の危険を感じ、疑問に思ったことを調べていく。その際には、ゲストティーチャーの地域の防災に対する話を聞いたり、避難場所や防災広場などの現地調査を行ったりしていく。自分なりにまとめた防災に対する考えを交流することで、防災に対しての知識や身の守り方を知るとともに、日常生活で様々な視点で判断行動し、多くの人に広められる発信力につながると考える。

7 手だて

（１）地域の人の話を聞いたり、質問したりする場の設定

知りたいこと、疑問に思ったことなどについて、防災公園などを見学したり、地域の方にインタビューをしたりして調べていく。実際に見たり聞いたりすることで、防災をより自分事として捉え、興味や関心を持って主体的に調べ学習を進めることができると思う。

（２）情報の収集、整理をするためのグループ活動

本単元では、個々の調べたいことを基にグループを作り、学習を進めていく。友達と同じテーマについて、一緒に調べ、まとめていく中で、子供たち同士が対話し、自分自身の考えを広げ、深めていくと考える。まとめ方については、様々な方法の例を教師が提示することで、役割を分担しながら協力して取り組めるようにする。

（３）他者に向けて発表する場の設定

それぞれのグループが調べたことを保護者や下学年の児童に発表する場を設定する。相手意識、目的意識が明確になることで、より主体的に調べたり、まとめたり、発表したりすることができる。また、調べたことを家族などの身近な人に伝えることで、家庭や地域に帰った時に、防災についての対話が生まれる。学んだことを、子供たちの言葉で家庭や地域に伝えていくことが、防災を自分自身の生活に繋げていく第一歩になると考える。

8 実践授業

たんぼぼ学級 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和6年10月24日（木）

場 所 たんぼぼ4組

対 象 たんぼぼ3・4・5組

4年 3名 5年 14名

6年 7名 計 24名

単元名 「まちを守ろう～地震に備えて～」

単元の目標

住んでいる町の特徴を知り、防災について知りたいことを調べたり、まとめたりすることを通して、防災の必要性に気付くことができる。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
④ 地震によって起こる災害について理解している。	⑤ 疑問に思ったことから学習課題を設定し、調べようとしている。 ⑥ 町探検で調べたり、地域の方にインタビューしたりして、情報を収集している。 ⑦ 調べたことをまとめている。 ⑧ まとめたことをわかりやすくまとめ、表現している。	⑦ 住んでいる町に関心を持ち、地域の特徴について考えようとしている。 ⑧ 防災の必要性に気付き、自分ができる防災について考えようとしている。

単元計画（全10時間扱い）

時	学習のねらい	・学習内容と☆評価
1 ・ 2	・町探検を思い出して、防災や地域の特徴について考える。	・写真を見て、町探検で見たこと（お店・建物・乗り物・道）を思い出す。また、いろいろな公園（遊具など）を思い出して、地域にある協和井戸端広場の存在を知る。 ・防災について考え、協和井戸端広場であることを考える。 ☆町探検を思い出して、地域の特徴について考えている。【主①】（発言）

3	・実際に協和井戸端広場に行き、協和井戸端広場にある物の使い方を知り、広場がある理由を考える。	・地域の方に話を聞き、何のために防災広場があるか知る。 ☆協和井戸端広場にある物の使い方を知り、広場がある理由を考える。【主①】（発言、観察）
4	・地震について知り、疑問点や自分たちができることを考える。 ・調べたいことを決め、グループに分かれる。 （例）危険な場所、避難場所、消火器（消火の仕方）	・避難訓練ではどのように避難しているか思い出し、地震による映像（強い建物・弱い建物）を見て、被害について知る。地域の安心・安全マップ等を見て住んでいる町ではどのような災害になるか考える。 ・墨田区防災マップを見て、自分の住んでいる地域の避難所等を知る。 ☆地震について知り、疑問点（や地震によって困ること）を考えている。【知①、思①】（発言、ワークシート）
5・6	・グループに分かれて、調べたいことを調査する。	・地域に出かけて、インタビュー等を通して調べる。 ☆調べたいことを調査している。【思②】（観察、インタビュー）
7 （本時） ・8	・調べたことを自分たちの方法でまとめる。 マップ ロイロノート（クイズ）	・グループごとに分かれて、情報をまとめる。 グループごとに写真や文字でまとめる。 ☆調べたことを自分たちの方法でまとめている。【思③、主②】（発言、観察、マップ、ロイロノート）
9	・発表に向けてグループで話し合い、準備する。	・発表の原稿を書いて練習する。 ☆発表の準備をしている【思④】（観察）
10	・おうちの人に調べたことを発表する。	・保護者に向けて発表することを意識させる。 ☆調べたことを発表している。【思④】

本時の学習（7時間目／10時間）

（1）本時の目標

- ・グループで決めた表現の方法を話し合い、調べたことをまとめようとしている。
（思考力、判断力、表現力等）

(2) 本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ★評価
導入	○めあてを確認する。	
	めあて 調べたことをまとめよう	
	○前時の学習を振り返る。 ・インタビューや町探検を行い、どんなことについて調べたか確認する。 ○各グループの調べたことやまとめ方について確認する。	・何について調べたか振り返る。 ・それぞれの班で何を調べたか、グループごとに振り返る。
展開	○グループに分かれてまとめかたについて話し合う。 ・役割分担をする。 ・どの写真を使うか話し合う。 ・実物は何を用意すれば良いか話し合う。 ○調べたことをまとめる。 ・ロイロノートやマップを使ってまとめる。	・マップや画用紙、模造紙を用意しておく。 ★グループで決めた表現の方法を話し合い、調べたことをまとめようとしている。(発言・観察) ・終了時刻を確認する。 個別の支援 ・調べたいことを確認する。 ・タブレットの入力支援をする。 ・支援員と一緒に作業を行う。
終末	○グループごとにどんなまとめ方をしたのか、発表する。 ○グループごとに次時の予告をする。	・本時の続きを行うことを伝える。

(3) 授業観察の視点

- ・児童が主体的に活動に取り組んでいるか。
- ・グループでまとめていく中で対話が生まれているか。

【見学・インタビューの日程】

- ・10月 4日(金) 協和井戸端広場見学(防災士3名による説明)
(防災井戸・マンホールトイレ・収納ベンチ・防災パーゴラ・収納縁台・かまどベンチ)
- ・10月17日(木) 町探検・・・避難場所・消火器・安全(危険)な場所のグループ
防災士の方にインタビュー・・・食べ物・水・電気

【グループ分け】

	調べたい内容	児童	教員・介助員
1	食べ物(非常食)		中田・渡辺・鈴木

2	避難場所		新井・大橋
3	水		福島・高梨
4	電気		福島・高梨
5	消火器		近藤・渡辺教
6	安全な場所・危険な場所		近藤・渡辺教

【調べたい内容】

○食べ物（非常食）

- ・防災グッズ（非常食など）は何が必要か
- ・備蓄倉庫を見たい

○避難場所

- ・防災用公園はいくつあるのか
- ・公園に防災ベンチをあるのか
- ・寝る場所はどこになるのか
- ・避難場所はどこになるのか
- ・外国の方は困るのではないかと（→シルビア先生にインタビューする）

○水

- ・飲み物が飲みたいときどうしたらいいのか
- ・お風呂はどうしたらいいのか
- ・洗い物はどうしたらいいのか

○電気

- ・自転車を漕いで電気をためられるのか
- ・電気がつかなくなったらどう生活すればいいのか

○消火器

- ・消火器の使い方
- ・墨田区に消火器がいくつあるか
- ・（安心・安全マップはあるが）本当にあるのか確かめたい

○安全な場所・危険な場所

- ・崩れないおうちを調べたい
- ・危ないブロック塀を調べたい
- ・津波がくるのか

9 協議会記録

（1）協議会より

○児童が主体的に活動に取り組めていたか

- ・児童が主体的に活動していた。
- ・学習しやすい環境ができていた。
- ・学習計画や本時の流れを掲示していて主体的な学びにつながっていた。
- ・調べたい内容でグループを分けていてよかった。
- ・自分の活動の役割をよく分かっていた。

- ・地域の防災というテーマ（教材）が児童にあった。

○グループでまとめていく中で対話が生まれていたか。

- ・個人でまとめるのは対話が難しかったのではないか。
- ・振り返りの場面で、対話がうまれるようにすれば良かったのではないか。
- ・対話の場面を設定するのであれば、もっとよくするには、とか分かりやすくするには等のテーマがあると話やくかったのではないか。
- ・今回は、活動が中心だったので、発表会ではもっと対話がうまれていくと思う。
- ・発表方法をみんなで一つにしても対話がうまれて良かった。

○質疑・応答

- ・ワークシートに貼った写真はどのようにして選んだのか
→ 写真は自分が選んだ。ワークシートの説明の部分は、児童が表現したいことを書けるようにした。

（２）指導講評 墨田区立業平小学校 校長 伊藤 康次 先生

- ・地域教材で防災を取り扱うのは、素晴らしい单元
- ・児童の防災教育は、ここからがスタートになる。
- ・これまでの学習計画の表がよかった。うまくいったという成功体験が大切。
- ・児童が３０分も作業に集中できていた。
- ・自分の作業が終わったときに、静かに友達の活動を見守る活動があっても良かったのでは。
- ・個々の分担作業になってしまうこともあったが、座席配置や拡大マップを使ってみんなで作業をするなどの工夫があれば、もう少し対話がうまれたかも。
- ・どのグループにも教師、介助員がいてスムーズに進めていた。
- ・今日の授業のねらいを主体的にだけにしぼってもよかったのではないか。（対話的にはまた別の時間のねらいにする。）
- ・３０分の作業時間は、長かったのではないか。途中で作業を止めて、できたところまで発表し、その後また作業を進めて良かったのでは。

○「対話をどう定義するのか。」

- ・学習に直結する対話と認知や行動（スキルの向上、関わり合い、他者を意識する等）における対話がある。
- ・意図的に他者と関わる場の設定が必要→单元計画の中には、対話がちりばめられている。まとめで、他者を意識するには、一つのものに視線を集中させることが大切。マップは有効だった。

○「防災教育と特別支援」

- ・学習のエネルギーは、協和防災井戸端広場だったのでは。街の方の防災の願いが子供たちにも「なんとかしなくては」と言う問題意識、問題解決につながった。
- ・なぜ、インタビューが得意ではないのかを考えていってもよいのでは。自立活動の側面から考えてみる。

- ・たんぽぽの児童が地域に働きかけ、知ってもらえたこと、ぼく、わたしが「できるかもしれない」という気持ちがもてる。こういう意味でもこの教材は素晴らしい。

10 研究のまとめ

(1) 各手だての検証

i 手だてに沿った検証

○地域の人の話を聞いたり、質問したりする場の設定

- ・地域にある協和井戸端広場を見学し、町に住んでいる防災士の方の説明を聞いたことで、町の方の防災への願いを知り、防災についての問題意識をもつことができた。

○情報の収集、整理をするためのグループ活動

- ・グループごとに分かれ、自分の調べたいことをまとめることができた。

→個人の作業が多くなってしまったので、調べたことをまとめる際には、マップなど発表方法をグループで1つにするとさらに対話が生まれて良かった。

○他者に向けて発表する場の設定

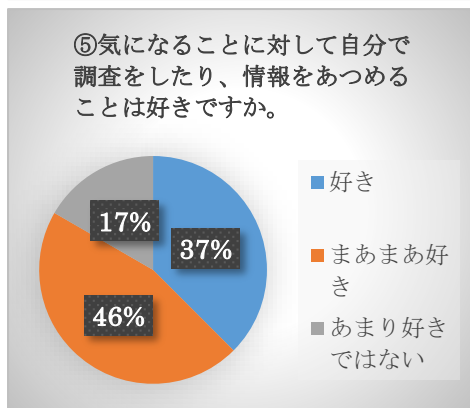
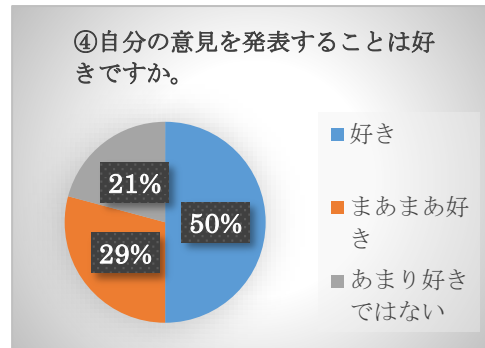
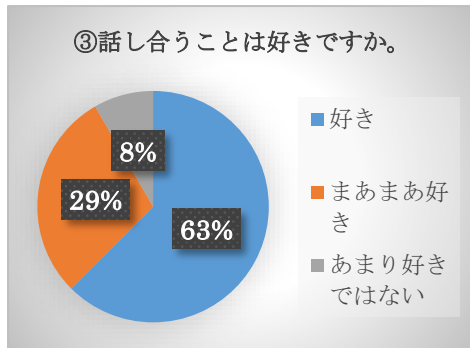
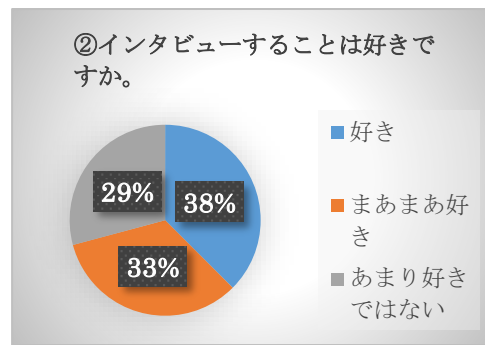
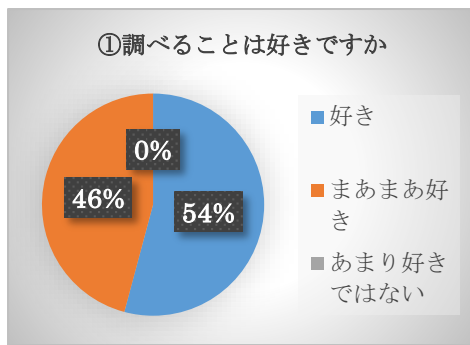
- ・下学年に伝えるという目的意識をもたせたことで、伝え方の工夫を話し合い、発表することができた。
- ・調べたことを保護者にも発表し、家庭でも話し合えるような場面設定を行うことができた。

ii 仮説の検証

仮説

『学校のまわりの地域の特徴を知り、疑問に思ったことを調べたり交流しあったりすれば、主体的・対話的に取り組む児童が育つだろう。』

事後アンケートでは、「気になることについて、自分で調査をしたり、情報を集めたりすること」について「好き」と答えた児童が増えていた。本単元では、気になることや知りたいこと、疑問に思ったことなどについて、防災公園などを見学したり、地域の方にインタビューをしたりして調べることができた。これまで、本やインターネットでの調べ学習に取り組んできたが、直接見に行ったり、インタビューをしたりするなどの新たな方法を知ることで、調べて情報を集めることの楽しさを感じる児童が増えたと考えている。



(成果)

- 地域にある協和井戸端広場を見学し、町に住んでいる防災士の方の説明を聞いたことで、町の方の防災への願いを知り、防災についての問題意識をもつことができた。また、「自分たちができること」を考えるきっかけになった。
- 児童が調べたい内容でグループを編成したことで主体的に取り組むことができ、調べたいことを伝える活動につながった。
- 地域に活動の場を広げることにより、地域のことをもっと知りたいという主体的な学びにつなげることができた。

(課題)

- 個人の作業が多かったので、調べたことをまとめる際には、マップなど発表方法をグループで1つにするとさらに対話が生まれて良かった。
- 他者意識をもつことが難しい児童もいるので、友達と関わらないといけない場面を意図的に設ける必要がある。
- 児童が調べてみたい、伝えたいという学習の設定を今後も継続的にしていく必要がある。

Ⅲ 研究のまとめ

1 1 各学年の地域との関わりについて

	第1学年	第2学年	第3学年
地域教材・施設	宮前橋公園	押尾川部屋	きらきら橋商店街
主たる教科	生活科	体育科	社会科
単元名	秋を探しに行こう	どすこい！四あづ場所！	職業について知ろう
単元目標 (重点目標)	自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに関心する。	力試しの運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりする。	仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々との関連を考え、表現する。
関連する教科等	国語科	生活科、図画工作	国語科、総合的な学習の時間

	第4学年	第5学年	第6学年
地域教材	栄真堂（書店）	千葉大学	きらきら橋商店街
主たる教科	国語科	図画工作	国語科
単元名	本のPOPをつくろう	つくってあそぼう	みんなで作ろうパンフレット
単元目標 (重点目標)	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。	造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考える。	「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いているなど自分の考えが伝わるように表し方を工夫している。
関連する教科等	総合的な学習の時間	国語科	総合的な学習の時間

	たんぽぽ低学年	たんぽぽ高学年
地域教材	ぐるぐる広場	協和井戸端広場
主たる教科	生活単元	総合的な学習の時間
単元名	お気に入りを見つけよう	まちを守ろう～地震に備えて～
単元目標 (重点目標)	公園に行き、教師の援助を受けながら、気に入った遊び場や遊具で自分からすすんで遊ぶこと、順番を待つこと、安全な遊び方を知る。	住んでいる町の特徴を知り、防災について知りたいことを調べたり、まとめたりすることを通して、防災の必要性に関心することが出来る。
関連する教科等	国語科	社会科

【今回関わった地域施設・教材・人材】

向島警察署、向島消防署立花出張所、京島三丁目中央町会防災部長、京島三丁目北町会防災部長、ファミリーすみだ文花（老人ホーム）、IU大学、ひきふね図書館、テクネットすみだ、吉野製作所、八島花文化財団（すみだ向島EXPO）

12 今年度の研究の成果と課題

（成果）

- 地域と関わることをテーマに研究を進めた結果、コロナ禍によって希薄になっていた学校と地域とのつながりを再構築することができた。
- 実際に地域を散策したり、地域の問題について調べたりしたことで、地域に対する興味・関心や、地域を大切に思う気持ちに高まりが見られた。また、地域をテーマに研究を進めたことにより、教職員も地域について調べ、知り、児童と共に地域について理解を深めることができた。
- 今年度の研究から、今まで知らなかった地域のよさに気が付いたり、今自分にできることは何かを考えたりしたことで地域に貢献しようとする思いが児童に見られた。

（課題）

- 多くの地域の方々に御協力いただいたことで、研究を進めることができた。今年度だけで終わらせるのではなく、次年度以降も地域との関わりを深め、学年の実態に応じた交流を継続させていくとともに、新たなつながりを模索しながら地域素材を活用した教材開発に努めることが課題となる。

今年度ご指導いただきました講師の先生

墨田区立立花吾嬬の森小学校 校長 向井 一郎 先生

墨田区立立業平小学校 校長 伊藤 康次 先生

おわりに

副校長 宮川 範子

今年度は、研究主題を「主体的・対話的に学ぶ児童の育成～身近な地域素材を活用した教材開発を通して～」に設定し、昨年同様3分科会に分かれて研究を進めてきました。また、今年度は墨田区教育研究奨励事業の「特色ある学校づくり推進校」の指定を受け、研究の成果を発表する機会をいただきました。

コロナ禍が開け、地域との交流が戻りつつあった昨年度から、今年度はさらに地域との関わりを広げ、多様な地域人材・資源を教材化しました。研究を進める中で、本校の周りには様々な地域材があることを教職員は再認識しました。来年度から2年間、「墨田区 研究協力校」として研究を深めていくこととなり、本年度の研究を土台に、さらに地域との関わりを深め、「主体的・対話的に学ぶ」児童の育成を目指していきます。

最後になりましたが、研究を始めるにあたり、地域学習のフィールドワークや京島地区についてのご講演をいただきました墨田区立立花吾嬬の森小学校 校長 向井一郎先生、教科横断的な授業、特別支援学級の授業へのご指導をいただきました墨田区立業平小学校 校長 伊藤康次先生におかれましては、心より感謝申し上げます。